

## 回復が遅れる素材生産

- (1) 7月の製造業生産は、素材・加工ともに震災前より約5%低い水準(図表1)。もっとも、震災後の動きをみると、加工の生産は大幅な落ち込みの後、急回復している一方、素材はほぼ横ばいで低迷。在庫水準でも、加工は減少しているのに対し、素材は鉄鋼や非鉄金属、化学などほとんどの業種で増加。こうした動きから、素材の生産減は供給制約という一時的要因よりもむしろ需要減によるものと解釈可能。
- (2) 実際、経済産業省「出荷内訳表」をみると、素材需要は輸出・国内ともに減少(図表2)。
- ① 輸出は、海外経済の拡大にもかかわらず減少。一方、輸入浸透度は2011年入り以降急上昇(図表3)。
  - ② 国内出荷の減少は、建設など復興需要の遅れが主因。普通鋼受注をみると、自動車用で急激な回復がみられるものの、建設用は春以降減少が持続(図表4)。
- (3) 以上を踏まえ今後を展望すると、復興需要が徐々に顕在化するとみられるため、素材生産の8割を占める国内向けは増加に転じる見通し。もっとも、円高のマイナス影響が残るため、輸出には下押し圧力が残存。素材生産の回復ペースは緩やかにとどまる見込み。

